

GO TO 世界の旅

フランス在住の絵本作家、市川里美さん。市川さんの優しくあたたかな絵本は、世代を問わず人気です。そんな市川さんの作品のいちばんの特徴は、未知の世界への好奇心、異文化に対する敬意が伝わってくるのではないのでしょうか。

絵本をつくるとき、市川さんはまず、物語の舞台となる地へおもむき、そこに滞在してスケッチを重ねます。カメラを持っていくことは、ないのだそうです。そうして現地の人たちとふれあうなかで、表現したいものを探していくのです。

コロナ禍のなか、わたしたちは世界を自由に行き来することができなくなりました。こんな時だからこそ、市川さんの絵本を読んで、世界を旅しませんか？そして、見知らぬ土地とそこで生きる人々に思いをはせていただければと思います。



「世界の旅から生まれた絵本～市川里美の世界～」

生まれ故郷大垣をあとにして、一人でヨーロッパに旅立ったのは21歳の時。それからパリに住んで長い年月が流れてしまいました。パリの本屋で偶然であった美しい絵本に刺激され、美術を学んだこともないのに自分で絵本創作の仕事を始め、これまで夢中で描いてきました。振り返ってみると絵本の本数は80冊ほどになっていました。現在まで一度も断絶することなく長い期間この仕事を続けてこられたのも、出版社の理解、国内外の読者の方々、応援してくださる故郷の人たち、また人生の旅先で出会った人たち

のおかげと、感謝の気持ちでいっぱいです。いつのときも創作のテーマは、人生のその時々に出会った人びと、生活、自然、動物、花などと常に愛したものだといえます。日常生活の中であったり、あるいは遠い国に旅しながらそこで思いがけない違った生活をする人びとに出会うとき、その違いゆえに、私を驚かせ、世界は限りなく広く、豊かなものであり、生きとし生きるものは愛しいものだと感じられるのです。そこでしばらく一緒に暮らした人びとのこと、また路上で出会って言葉をかわしただけの子供であっても、心に残ったことは絵本のなかに留めておきたいと思ったものです。それゆえに、これまで創作してきた絵本は私の歩んできた人生の記録といえるかもしれません。これからも、日常生活の中で、あるいは遠い世界の国に旅しながら出会った愛する世界を絵本のなかに描き続けていきたいと願っています。



『ジブリルのくるま』に登場するおもちゃのくるま

2018年 市川里美

世界のこどもたち

キルギスの草原で

旅が大好きで毎年違った国を訪れて、そこに住む人々と一緒に生活し、スケッチを重ね、絵本を創作しています。2017年と2018年の夏はキルギスの国を訪れました。キルギスはアジア、ヨーロッパ、ロシア、アラブ、アフリカなどの国を結ぶ通路の途上にあり、そこを人々は昔から馬、らくだ、ろばなどに荷物を積んでアジアからヨーロッパに、あるいはアラブからアジアに、またあるいはロシアからアジアにと、山や草原や砂漠をこえて旅をしたものでした。馬は大切な移動手段であるとともに、人々にとって



キルギスでのスケッチ①



キルギスでのスケッチ②

今も馬のミルクは欠かせない栄養補給源なのです。キルギスで馬を飼う人々は冬の間は村に住み、雪が解け、春が来て、草が青々と伸びてくるやいなや、家族総出で、テントや布団や、

てホーム・メイド、手作りのお菓子、うどんや餃子の味は忘れることができません。思い出するときりがないキルギス滞在でした。そのあと、2019年の夏はペルーのブラジルの国境近く、アマゾン川が始まるあたりで1ヶ月過ごしました。アマゾン川はそこからまた大西洋まで2700kmもの長い距離を流れて行くのです。そこでは、また違った人々の生活が広がっていました。アマゾン川で生きる人々とカイマンわにのお話の

次の絵本はフランスでは2020年の11月出版予定です。2021年には日本の読者の皆様に見ていただけるのを楽しみにしています！



キルギスが舞台の絵本『こうまのマハバット』

台所道具などすべて積んでたくさんの馬を連れて山の草原に出かけ夏を過ごすのが毎年の習慣なのです。栄養たっぷりのやわらかい草が見渡す限り生え、広々とした草原をのびのびと走るの、動物たちにとって天国といえましょう。キルギスの草原に住む子供達にとっても、小さい時からの遊び相手は馬なのでした。まるで自分の自転車のように大きな馬を自由に乗り回している子供達たちを見て、いかに羨ましく思えたことでしょうか。村から遠く離れ水道も電気も無い草原に住む間、主婦の仕事は家族の食事の世話から、動物のミルク搾り、川から水汲み、燃料集め（乾した牛のふん）、洗濯など山のようにあり、もちろん近くに店などまったく無いながら、私が滞在中も、餃子、パン、うどん、お菓子などすべ



右：キルギスの移動式テント「ユルタ」の天井を内部からスケッチ
左：現地で購入した手作りの人形

2020年 市川里美